

# 地域・医療・経営 のこだわり

No.03

医療法人社団緑星会どうたれ内科診療所  
堂垂伸治 院長



医療法人社団緑星会どうたれ内科診療所

1999年1月の開院以来、外来と在宅の両方に力を入れ、地域医療と地域活動を実践。訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所を併設し、寝たきりになっても認知症になってもがんになっても、地域で暮らすことができる体制づくりを展開している。

## かかりつけ医には プロ意識が必要 患者ファーストを信条に 緻密な診療にこだわる

——どうたれ内科診療所は外来と在宅医療を展開し、かかりつけ医として地域住民の健康や生活をサポートしています。大切にしていることは何ですか。

一言でいうと、「プロ意識」です。プロフェッショナルな医師というと専門医がイメージされがちですが、

が、かかりつけ医には、かかりつけ医としてのプロ意識が求められます。

私が大切にしていることはまず、患者さんファーストであること。多様な患者さんがいて、それぞれの生活や考えがあり、「これが正解」という治療はありません。エビデンスに

基づいた標準治療が必ずしも患者さんを幸せにするわけではないのです。極端な例ですが、手術をすれば治る見込みがあっても、超高齢者ではさまざまな考え・事情からそれを選択しない方もいます。もちろん説明は尽くしますが、その人が「治療を拒否する」という選択をしたなら、それを見守って

いく医療も十分あり得ると思うのです。これは、「治療を疎かにする」という意味ではありません。

長年私の外来に通っている生活習慣病の患者さんには、主に診ている疾患以外の病気にかかっているのかしつかり診察をしています。たとえば、定期的な血液検査の結果が正常値の範囲内でも、過去のデータと比べて変化がないか

も見ています。また「これまでの自分の診断や治療が正しいかどうか」を日々疑って診療しています。そうした視点は、長く診ている

かかりつけ医だからこそ重要だと思っています。緻密で妥協しない厳格な臨床が、プロフェッショナルとして大切にしていることです。

——かかりつけ医としてのプロ意識はどこから生まれてくるのか、考えをお聞かせください。

根底には「頼ってくる人の役に立ちたい」「可能な限り支援がしたい」という思いがあります。医師のみならず医療や介護で働く人のなかにはこうした思いを持つ人が少なくありません。大切なのはハートで、これが欠如してはプロ意識も芽生えてきません。実際の現場では、一歩踏み込ん

だ説明や診療を心がけています。その結果、かかりつけ医として信頼されるようになるのだと思っています。

——開業医はかかりつけ医であると同時に、経営者でもあります。その点はどう捉えていますか。

私は「良質な医療」を提供すれば自ずと経営は成り立つと考えています。それより、より広い視点ですが、医療保険が破たんしてしまつては、結局国民にしわ寄せが来ます。ですから、適正な医療経済を意識し、少ない費用で最大の情報や治療効果を得るように努めています。「ムダなことはしない」ということです。

医師のなかには、保険診療の仕組みもきちんと理解していない、コスト意識もない診療を行う人もいます。それで最終的に困るのは患者さんであり、国民です。かかりつけ医としての診療の仕方だけではなく、そうした面も含めてほかの医師にも理解していただきたいと考えています。

### 概要

- 住所：千葉県松戸市 常盤平 1-20-3
- 診療科目：内科、在宅医療